

# 平成28年度 学校自己評価表

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	アクティブラーニングに関する研修に全教科の教員を派遣するとともに、「学びの文化祭 in Yonago」を開催して、授業改善を推進した。	学力の向上	組織的、計画的に授業改善を推進する	エキスパート教員を中心とした授業公開週間での授業研究の推進 授業評価アンケートによるPDCAサイクルの構築 「学びの文化祭 in Yonago」などでの授業改善の推進	B	学習科学セミナーに3人、エキスパート教員育成事業に3人、学習科学セミナーメンター育成コースに2人が参加した。授業アンケートは授業改善に活用できていると複数の教科が評価した。2回目となった「学びの文化祭 in Yonago」でICT活用による授業改善研究を推進した。	B
			系列の特色化と資格取得を促進する	各系列での特色ある実習や活動の充実 資格取得者増と難関資格へのきめ細かい受験指導	B		実習等は概ね計画どおり実施した。生活福祉系列は手話パフォーマンス甲子園(全国大会)への出場を果たした。商業科目の資格取得において合格率が昨年度より約20%向上した。
		思考力、判断力、表現力の更なる向上	テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める	受験も視野に入れたプレゼンテーション能力の育成 地方創生アイデアコンテストへの応募	B	テーマ学習でRESAS(経産省:地域経済分析システム)を活用し、「米子市中心市街地活性化計画」を策定した。地方創生アイデアコンテストへの応募の過程でプレゼンテーション能力を高め、進路実現につながった。	B
		2 豊かな人間性の育成	遅刻者数は減少しているが、更に減らす必要がある。掃除や届出の徹底を含め規範意識を向上させる必要がある。主体性を高める必要がある。	基本的生活習慣の定着	更に遅刻者数を削減(対前年度比3割減)するとともに、規範意識を高める	遅刻確認票による遅刻指導の強化 「無言掃除」による掃除の徹底	C
生徒の主体的活動の推進(国際交流・環境保全活動・部活動)	生徒の各種活動への積極的参加を促す			生徒会執行部による各種自主的活動の充実 アメリカSTA高校・韓国造形芸術高校への交流派遣 TEAS活動の推進、環境講演会の実施	A	生徒会執行部は学校祭のみならず校内美化など多方面で積極的に活動した。国際交流事業はアメリカSTA高校からの受入と4年ぶりとなる韓国造形芸術高校への派遣を実施した。TEAS活動は環境委員がゴミの計量など地道に取り組んだ。	A
支援が必要な生徒への援助	生徒情報を共有し適切に生徒をサポートする			情報交換会・いじめ対策委員会の定期的な開催 特別支援教育委員会の適時開催と適切な対応	B	定期的にアンケートを実施して実態把握に努めた。特に情報交換会は定期的な開催に加えて、必要に応じて開催した。	B
3 自己実現のための進路指導の充実	産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習が進路実現に反映されている。	キャリア教育の発展	教員の指導力を向上させる	産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習での確実なキャリア教育の構築	B	「地方創生アイデアコンテストに関わる教員向け研修会」など領域教育の研修に参加した教員が他の教員に還元した。	B
		進路指導の充実	生徒に高い目標を設定させ、希望の進路を実現させる	受験・面接等のきめ細かい個別指導の促進 教員の研修体制の充実と進路情報交換会の活用	B	進路関係研修を進路情報交換会に還元するなど、進路指導体制を確立した。進路指導部と担任が連携して指導に当たり、4年制大学は過去最多の合格者数となった。	A
4 地域との連携による学校づくり	地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。	地域のニーズに応じた地域貢献	文化部活動の中で地域のニーズに積極的に応える	漫研・ダンス・演劇・吹奏楽等の各種イベントの開催 地域からの要請への積極的対応	A	各種イベントを開催し、地域から高評価を受けた。公民館から依頼された紙芝居制作やJRマナーアップキャンペーンのポスター制作、吹奏楽部の保育園との交流などで地域連携・貢献を果たした。	A
		積極的な社会参画と情報発信	社会につながる教育活動を推進する	主権者教育等の社会参画のための講演会、出前授業等の推進 テーマ学習における米子市中心市街地活性化計画の策定による地方創生 総合美術展の開催	B	主権者教育は選挙前アンケートと講演会を実施し、3月には2年生に模擬投票を実施する。テーマ学習で取り組んだ内容を学習成果発表会で地域にアピールし地方創生の一翼を担った。総合美術展を開催し地域に学習成果を発信できた。	B

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要